

2021年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人経専学園
 経専北海道保育専門学校
 学校関係者評価委員会

1. 開催日

2022年7月11日

2. 開催場所

経専北海道保育専門学校

3. 学校関係者評価委員

	選任区分	人数	役職名
外部関係者	企業関係者	1名	認定こども園園長
外部関係者	卒業生	1名	福祉施設職員
学校側	学校教職員	2名	部長、部長代理

4. 学校関係者評価委員会報告

①自己点検・評価報告及び討議・意見

※評価＝適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(1) 教育理念・目標

(1) - ①理念・目的・育成人材像は定められているか

自己評価： 4、委員会評価： 4

学園基本理念である「学生第一主義」を念頭に置き、学生が就職3年後に「学校で身につけた専門的な基礎知識・技術を駆使しながら、社会人基礎力を磨き、職場で重要な戦力となり活躍している」ことを育成目的とし、これらをカリキュラムなどの教育内容に反映させている。

(1) - ②学校における職業教育の特色は何か

自己評価： 4、委員会評価： 4

教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得させるために、専門知識系科目と専門技術系科目及びその他必要な科目を体系的に編成し、座学、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

(1) - ③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか

自己評価： 4、委員会評価： 4

ホームページ、ガイダンス、各種説明会、年3回の保護者への通知等で周知を図っている。

○課題

・特になし。

○今後の改善方策

・特になし

○各評価委員からの意見・指導

・特になし

(2) 学校運営

(2) -①目的等に沿った運営方針が策定されているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
設置法人が定める運営方針に基づき、当該専門学校の方針、目標、組織体制を定めている。運営方針は経営推進会議にて検討し、各校部長を通じて各職員に周知徹底されている。	
(2) -②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
各校の重点課題目標に沿って、具体的な実施計画を策定している。毎月の取組みについては、各校部長より常任理事を通じて報告し、経営推進会議にて状況把握の上、追加施策等を検討している。	
(2) -③運営組織の意思決定権は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
就業規則及び業務分掌表にて明確化されている。定期的に行われる職員会議にて全職員が情報を共有し、決定事項については原則、会議にて決定する。	

○課題

- ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特になし

(3) 教育活動

(3) -①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
卒業までの授業科目計画及びシラバスが配布されている。	
(3) -②教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
専修学校設置基準に定められた年間 800 時間以上、課程の修了に必要な総時間数 1,700 時間以上を確保しており、学則に明記している。	
(3) -③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
カリキュラムは、保育士や幼稚園教諭等の資格取得の必須科目（法的に定まっている）と業界のニーズを踏まえた実技・実践科目から成っている。専門職業力、社会人基礎力、高い職業意識と意欲について修得目標を定め、それに基づき各学年毎のカリキュラム編成を行っている。	
(3) -④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
実技・実践科目のカリキュラムは、保育現場の意見を取り入れながら見直しを行っている。教育課程編成委員会を開催し、現場のニーズを確認しながらカリキュラム編成を行った。教育方法については、前後期に学校間を越えて教職員による授業参観を実施し、教授方法の見直しを図っている。また、幼稚園と養成校の懇談会や全国保育士養成協議会の研修、北海道私立専修学校各種学校連合会主催の教員研修等に参加し、定期的且つ組織的に工夫、研究を行っている。	
(3) -⑤授業評価の実施・評価体制はあるか	自己評価： 2 、委員会評価： 3

2019年度より、授業に関する質問を含む、学校生活全般に関するアンケートを卒業時に実施している。結果については、4点満点で、こども未来学科3.06、こども学科3.11であった。学園平均が3.20となっており、どちらの学科も学園平均を下回っている。アンケートの記述回答からはコロナの影響で学校行事が軒並み中止となっていることに不満があるように窺える。

○課題

- ・コロナ禍で通常通りの学校運営ができていない状況は、どこの学校も同じと思われる。学校行事は、クラス間のみならず、学科や学年を超えた関わりから学べることが多く、日々の学校生活のストレスなどが解消できる機会となっているため、行事が実施できないことによる不満が蓄積しているものと推測される。

○今後の改善方策

- ・新型コロナウイルスは未だ終息の傾向ではないが、少しずつ規制が緩和傾向にある。対面での授業は再開され、学校行事も感染予防対策を講じながら実施が可能となってきている。今後、まん延防止や緊急事態宣言等が発出されない限り、できるだけコロナ前の学校運営に戻すようにしていく。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育現場や施設でも少しずつ行事などが実施できるようになってきた。陽性者が出ても慌てることなく対応することができるようになった。学生にとって有意義な学習環境を提供して、質の高い保育者を養成していただきたい。

(4) 学修成果

(4) - ①就職率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

就職率を①専門職決定率（学んだ分野への内定者数）②全体決定率（就職希望者に対する就職率）③対象外率（就職を希望しない人数）に分類し、それぞれに目標を設定しながら学生の就職活動を支援している。2021年度の結果は、卒業者90名、就職希望者89名、就職決定者87名、専門職決定者86名で、①専門職決定率目標99%で結果は96.6%(就職決定者87名中専門職86名決定)、②全体決定率目標100%に対し97.8%(就職希望者89名中87名決定)、③対象外率目標1名以内に対し1名
引き続き求人も非常に多く、学生にとっては恵まれた環境である。

(4) - ②資格取得率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 4

資格取得率の推移を分析し、資格取得率の向上を図る取り組み（単位修得を目的とする取り組み、単位実習をクリアするため取り組み）を検討し実施している。2021年度の資格取得率は、こども学科98.6%（昨年98.5%） こども未来学科95.4%（昨年95.2%）となっており、各学科1名資格未取得となっている。

(4) - ③退学率の低減が図られているか

自己評価： 2 、委員会評価： 3

前年度の実績を基に、毎年目標を設定しながら退学率低減に取り組んでいる。2021年度は7名の目標でスタートし、結果11名と目標を達成することができなかった。進路変更、体調不良が主な理由で、1年生前期の早い段階で退学を決断するケースが目立った。

○課題

- ・就職については、引き続き求人は潤沢にいただくことができおり、学生にとっては恵まれた環境ではあるが、大量にいただく求人から受験先を選定するのに時間がかかり就職決定時期が3月までずれ込んだケースが散見された。また、地域限定での就職活動を希望する学生については、地域によっては求人数が少なく受験機会そのものがないというケースもあった。
退学については、入学時に強い意思がなく、なんとなく進学を決めた学生が入学後に保育への進路について悩み、別の進路を選択する傾向にある。

○今後の改善方策

- ・就職については、引き続き就業後の早期離職がないよう、ミスマッチを防止するような就職指導を継続しつつ、迷っている学生には遅くとも年内を目途に受験先を決定できるようサポートしていく。地域や職種への拘りがある学生を早くからリサーチし、早めに対応する。
- 退学については、引き続き担任との信頼関係を構築し、なんでも相談できる環境を整え、悩みなどを抱えている学生へ早期の対応を図る。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育現場は引き続き職員採用に苦慮しているところが多い。保育士人材バンクを利用するところもあるようだが負担が大きい。稀にハローワーク経由で応募するケースもあるが、新卒者を養成校から採用することが望ましいことにならない。

(5) 学生支援

(5) - ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか
自己評価： 4 、委員会評価： 4
クラス担任、就職担当者によるダブル支援体制をとっており、全ての学生を専門職に就職させることを目標としている。また、過去の就職試験内容が閲覧可能となっており、受験先に即した個別面接指導も実施している。就職希望調査により学生の希望を把握し、個々の状況に合わせた指導を行っている。基本的に就職活動に関しては、学生任せにすることはなく、学校が学生の状況をしっかり把握した上で、相互に納得した就職活動を行っている。
(5) - ②学生相談に関する体制は整備されているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
クラス担任は学生との個人面談を最低年2回実施しており、学生からの相談に対応している。また、事務職員を含む学校内の全ての教職員が積極的に学生に対して声がけを実施し、担任以外でも気軽に相談できる環境を目指している。
(5) - ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
学校独自の奨学生制度（入学時、進級時）や学費分納制度、経専学園学費応援制度など複数の支援体制にて対応している。近年、経済的に困窮している世帯も多く、学費納入に関して画一的な納入方法ではなく、個々の事情に合わせた提案を行っている。

○課題

- ・これまでもそうであるが、様々な家庭環境、経済事情により就学継続に不安感がある学生に対して学校としての対応には限界がある。また、精神的な疾患により登校が困難となった学生への支援にも慎重にならざるを得ない。

○今後の改善方策

- ・退学防止と同様にはなるが、引き続き担任との信頼関係を構築し、なんでも相談できる環境を整え、悩みなどを抱えている学生へ早期の対応を図る。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(6) 教育環境

(6) - ①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
個室のピアノレッスン室、電子ピアノ室、音楽室、手芸室、製作室、パソコン室、体育館、乳児保育室、図書室など専門的な知識・技術を習得するための設備は整っている。備品の購入、ピアノ調律は適宜行い、適切な学習環境を整えている。
(6) - ②学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3

学内の実習施設については、カリキュラムに対応する内容を整えている。必要に応じて備品の更新を実施している。学外の実習施設については、単位実習基準を満たす実習先を確保している。単位実習前に少しでも現場を理解し慣れるという目的で実施している、保育演習や福祉支援演習では、予め受入れ先との詳細な打合せを行っている。コロナ禍で、実習の受け入れに難色を示す園や実習時期の変更を余儀なくされている。

(6) - ②防災に対する体制は整備されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

火災防火の為の組織及び自衛消防隊の組織編成を行なっている。年1回の消防訓練においては教職員に対して消火器訓練も実施している。

○課題

- ・2020年度ほどではないが、2021年度も保育実習、教育実習については、期間変更と実習期間の短縮をせざるを得ない状況であった。感染者が増加傾向になった際に、実習時期が重なると、大幅な変更となってしまう。

○今後の改善方策

- ・本校では現場での実習を優先しており、あらゆる手を尽くしてもなお実習先が確保できない場合のみ、学内演習に切り替えている。学生には感染予防対策の徹底と毎日の健康管理を欠かさないよう指導を継続する。

○各評価委員からの意見・指導

- ・基本的に実習依頼があれば受け入れる方向で対応している。地方の自治体が運営している保育園などが、コロナ対応にシビアになっていると思われる。現場でしか学べないことも多く、保育実習は大切な経験であるので、引き続き積極的に受け入れていきたい。

(7) 学生の受入れ募集

(7) - ①学生募集活動は適正に行なわれているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期・募集内容等、同会の定めた規則を遵守している。

(7) - ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

カリキュラムや就職実績など正確な情報を受験者に提供することを心がけ、入学案内の内容は毎年見直しをしている。また、公表する数字の根拠を明確にし、誇大広告にならないよう自己点検している。

(7) - ③学納金は妥当なものとなっているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

毎年、学科単位で経費をチェックし学納金の見直しを実施している。その際、他校の学納金とも照らし合わせ適正度を確認している。

○課題

- ・新型コロナウイルスの影響により高校生は従来の進路活動が出来ない状況である。限られた少ない情報で学校選択をする生徒も多く、ミスマッチから早期退学となるケースも散見される。

○今後の改善方策

- ・来校型にオープンキャンパスが再開され、参加者も抵抗なく参加するようになった。オープンキャンパスでしっかりと個別に説明するとともに、保護者の参加も促し、きちんと理解・納得した上で入学を検討していただくようにする。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育希望者が減少傾向にあるようで残念である。保育士の待遇改善や働く環境の改善などをきちんと伝えることが必要である。保育現場と養成校で協力してPR活動ができれば更に良いと思う。

(8) 財務

(8) -①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

募集定員を下回る結果となっているが、昨年を2名下回る入学者を確保できた。経費の削減なども同時に行い、財務状況は特段問題はない。保育業界を志望する高校生は減少傾向にあるが、まだまだ根強い人気業種でもある。国の施策でも筆頭に挙げられている分野でもあり、今後も一定の入学生は確保できると思われるため、中長期的に安定していると考えます。

(8) -②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

予算・収支計画は設置法人の総務財務室で一括整備・管理している。学校から提出された予算書を基にチェック・アドバイスが行なわれ、理事会での承認後、執行されている。

(8) -③財務について会計監査が適正に行なわれているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

私学振興助成法に基づく公認会計士（監査法人）による監査及び私立学校法に基づき、法人寄付行為第34条による監事による監査を実施し、この結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議委員会へ報告をしている。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(9) 法令等の遵守

(9) -①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

法令を遵守し、適切な運営を行っている。

(9) -②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか

自己評価： 3 、委員会評価： 4

個人情報に関しては、細心の注意をはらうよう職員に徹底周知している。就職情報等についての公表資料については、学生より同意書をいただいている。

(9) -③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

自己評価にて課題を発見し、改善方策を検討し実施している。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

(10) -①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
自己評価： 2 、委員会評価： 2
地域の子育て支援の一環及び学生の学びの場として「保専ひろば」を定期的に開催していたが、コロナ禍で実施できていない。
(10) -②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
自己評価： 4 、委員会評価： 4
保育所、幼稚園、福祉施設などからのボランティア依頼は事務局が窓口となり、依頼があれば学生に周知、斡旋しているが、2021年度もコロナの影響により、ボランティア依頼は激減した。
(10) -③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
姫路大学通信教育一般生の試験会場、スクーリング会場として校舎を提供している。こども学科（保育士コース）では、以前より公共職業訓練（長期高度人材育成コース）の訓練生を受け入れており、2021年度入学者は入学受け入れ可能人数上限の8名が入学した。

○課題

・特になし。

○今後の改善方策

・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

・コロナがある程度落ち着けばボランティア活動への積極参加を期待したい。

以上